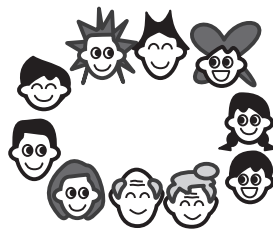


津谷歯科医院 口腔ケア新聞

NPO法人
訪問歯科診療
を広める会
賛助会員



令和4年9月号
発行人 津谷歯科医院
院長 津谷良
住所 岡山市中区海吉1807-14
紙面に関するお問い合わせは下記まで
電話：0120-779-418
配信代行：訪問歯科診療を広める会

皆さん、こんにちは！いかがお過ごしですか？

津谷歯科医院、院長の津谷良です。

要介護者の栄養摂取には、口から食事をとる経口摂取と栄養剤を鼻や胃腸へ管で送る経管栄養、直接血管内へ送る経静脈栄養に分けられます。食事の目的は単に栄養をとって生命を維持することだけではありません。特に高齢者にとっての食事は、見て楽しみ、香りに食欲をそそられ、食感や歯ごたえ、味を堪能することで脳が刺激を受けるとともに、家族や友人とのコミュニケーションの場でもあり生きがいのひとつになっています。摂食や嚥下に不安のある要介護者やその家族が経口摂取を希望する場合、多職種が連携して必要な食支援を的確に把握して実践することが求められています。今月は、『経口摂取困難の実態と食支援』についてご紹介したいと思います。

■ 要介護高齢者の栄養摂取の実態

名古屋大学の葛谷先生等の在宅療養者1,112名と特養入所者655名を対象とした『要介護高齢者の経口摂取困難の実態ならびに要因に関する研究』によると、在宅では経口栄養が94.7%、特養では91.8%といずれも10人のうち9人が口から食事をとることができているという結果でした。しかし嚥下機能を3段階で評価した場合、時折むせる等の症状が見られる『中等度嚥下障害』は経口摂取者の35%と高頻度に存在し、かろうじて口から食べているのが実情であると指摘しています。また嚥下障害者は、ADL得点、認知症、脳血管障害、神経変性疾患との関連が強く、BMIが低値で栄養状態不良と判定される割合が高率であったと報告しています。

■ 多職種による食支援と「KTBC」

要介護高齢者は複合した病気や障害から食事介助の難易度が高いとされ、将来的に非経口栄養に移行する可能性があります。そこで医学的管理だけでなく、食事介助、姿勢調整、栄養ケア等多職種が連携して情報を共有し、経口摂取の維持を支援する必要があります。経口摂取のための要素は、①心身の医学的視点から

『食べる意欲』『全身状態』『呼吸状態』『口腔状態』の4つ、②摂食嚥下の機能的視点から『認知機能(食事中)』『咀嚼・送り込み』『嚥下』の3つ、③姿勢・活動的視点から『姿勢・耐久性』『食事動作』『活動』の3つ、④摂食状況・食形態・栄養的視点から『摂食状況レベル』『食物形態』『栄養』の3つがあり、合計で13項目に分類できます。嚥下困難者についてこの13項目を評価し、不足部分と強みを明らかにして必要な食支援を担当職種が担います。今、この13項目を評価するためのアセスメントツール『KTBC』が注目されています。K(口から)T(食べる)B(バランス)C(チャート)は、NPO法人 口から食べる幸せを守る会の小山理事長等によって作成されました。特別な検査や機器が不要で、平易な言葉で書かれた判定基準のため誰にでも評価が可能です。結果がレーダーチャートとして個々の強みと弱みがわかりやすく視覚化される特徴があります。この評価を元に、治療・リハビリテーション・ケアをそれぞれの専門的な観点から展開することで本人や家族も含めて食支援の『見える化』を進めていくことができるツールです。活用してみたいはいかがでしょうか！



◆ 食支援とは口から食を楽しむためにリスクマネジメントの視点を持ち適切な支援を行うことです！ ◆

口腔ケア新聞の発行にあたって 

ここ数年、外来患者さんやそのご家族から訪問診療のお問い合わせやご依頼を受けるケースがとて増えてきました。小さなご病気されてしまったことがキッカケで、寝たきりになってしまわれたりして、『いつもお元気でいいですね』って話をしていたのに…。そんなことが続いたので、これは本格的に訪問診療に取り組まなければいけないかなって、強く思うようになりました。

そこで取り組みの一環として、要介護者の歯と口に関する情報を地域の介護に携わっている方にお届けしようと考え、口腔ケア新聞を毎月1回発行しています。

津谷歯科医院

診療時間 9:00~12:30/14:00~18:30
(土曜日は16:30まで)
診療科目 歯科 小児歯科
休診日 木曜・日曜・祝祭日
院長 津谷良
岡山市中区海吉1807-14
☎ 0120-779-418 FAX 0120-779-413